

テーマ展「能を彩る道具—小道具と作り物—」展示作品リスト

番号	名称	数量	時代	所蔵
1	風姿花伝 世阿弥著	5冊の内	成立：室町時代 応永20年代 (1413~22) 書写：江戸時代 寛文5年(1665)	彦根城博物館 (琴堂文庫)
井伊家の小道具と作り物				
2	次用能装束目録	1冊	江戸時代後期	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)
参考 写真	能作物・道具図 横田萬五郎筆	1冊	江戸時代 文政7年(1824)	国立能楽堂
3	能小道具目録	1冊	大正12年(1923)	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)
4	作り物控	2冊	明治～昭和時代初期	彦根城博物館 (琴堂文庫)
参考 写真	井伊直忠演能写真 (二人静・大江山)	2枚	昭和6年(1931)	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
舞台を彩る大道具				
5	能道具図式	1冊	明治～昭和時代初期	彦根城博物館 (琴堂文庫)
6	紅檜	2巻	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
7	奥屋根絹	1枚	江戸時代後期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
8	能楽用具輯	1冊	明治27年(1894)	彦根城博物館 (琴堂文庫)
9	夕顔	1具	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
道具と役柄のイメージ				
10	天冠	1頭	大正15年(1926)	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
11	中啓 金地桜図	1握	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
12	梨子打烏帽子	1頭	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
13	中啓 金地松に日出図	1握	江戸時代後期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
14	太刀	1口	江戸時代後期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
15	中啓 金地萩に薄図	1握	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
16	水晶数珠	1連	江戸時代後期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
17	鉦鼓	1具	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
18	笠	1頭	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
19	中啓 白地芭蕉図	1握	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
20	篠懸	1筋	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
21	兜巾	1頭	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
22	刺高数珠	1連	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
23	剣	1口	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
24	経巻	1巻	昭和8年(1933)	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
道具が語る物語				
25	沓	1双	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
26	梓枷輪	1台	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
27	蜘蛛糸	1式	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
28	松明	1本	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)
29	四手網	1具	大正～昭和時代初期	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)

「道成寺」—演出の妙—				
30	道成寺図 玉手眉山筆	1幅	明治時代か	彦根城博物館（柳町石田家伝来資料）
31	能面 曲見 是閑吉満作	1面	桃山時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
32	能装束 金地枝垂桜に松皮菱散らし文様唐織	1領	大正～昭和時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
33	能装束 白地鱗文様摺箔	1領	大正～昭和時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
34	能装束 黒地丸紋尽し文様縫箔	1領	大正～昭和時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
35	中啓 赤地牡丹唐草図	1握	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
36	能道具図式	1冊	明治～昭和時代初期	彦根城博物館（琴堂文庫）
37	鐘包	1掛	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
38	竜頭	1頭	大正～昭和時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
39	引綱	1本	大正～昭和時代初期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
40	能面 般若 児玉満昌作	1面	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
41	打杖	1握	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
42	鏡鉢	1双	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）

※琴堂文庫は、井伊家15代当主直忠（号琴堂）の旧蔵書。彦根城博物館蔵。

写真解説

1 作り物控 ^{つくものひかえ} 2冊 (作品リストNO. 4)

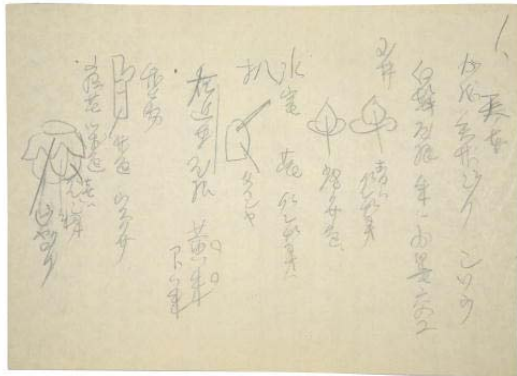
縦 24.2cm 横 16.6cm

明治～昭和時代初期

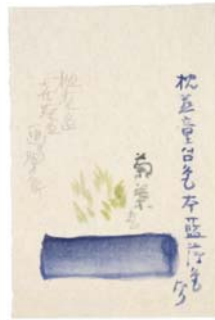
当館蔵 (琴堂文庫)

演目ごとに、作り物と小道具の寸法や作り方を記した写本。彩色を施した図が添えられており、その内容から能の流派の1つである観世流の作り物図とみられます。

本書は、井伊家15代当主・直忠 (1881～1947、号琴堂) の旧蔵書である琴堂文庫の一冊です。直忠は観世流の能役者に師事し、生涯、能に打ち込んだ人物です。本書には、作り物と小道具の色に関する直忠のメモが挟み込まれているほか、複数の図に直忠による彩色を指示する書き込みの痕跡があります。加えて、図のあるページに挟み込まれた彩色の見本には、「枕慈童」の作り物図のように、直忠が指示を鉛筆で書き込んだものも複数見られます。本書は直忠の指示によって作製された可能性が考えられ、あるいは、直忠が舞台に立つ際、本書を元に作り物や小道具を作ったのかもしれません。



作り物と小道具の色に関する直忠のメモ (右から「加茂」「白鬚」「玉井」「氷室」「右近」「竹生島」について記しています)



【右】「枕慈童」の作り物図、【左】「枕慈童」の作り物図の彩色の見本 (左側に直忠の鉛筆の書き込みがあります)

2 夕顔 ^{ゆうがお} 1具 (作品リストNO. 9)

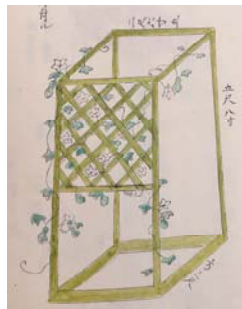
横 (最大) 54.9cm

大正～昭和時代初期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

『源氏物語』の夕顔巻を題材とした演目「半蔀」の作り物 (小屋) に用いる、夕顔の蔓と瓢箪。葉は型抜きした緑の紙で作られ、蔦は針金に紙を巻き、瓢箪は本物を乾燥させて彩色を施しています。小屋の柱や戸に蔦を這わせ、瓢箪と、現在は失われてしまいましたが、白い花を付け、夕顔の生い茂る風情ある侘び住まいを表現します。

「半蔀」の小屋の作り物図 (作品リストNo. 8)



夕顔の蔓と瓢箪

3 ^{てんがん}天冠 1頭 (作品リストNO.10)

総高 24.5cm 径 14.5cm

大正15年 (1926)

当館蔵 (井伊家伝来資料)

^{てんがん}天冠は、女神や天女などの高貴な女性役で使用する冠。金属製の円筒形の冠で、透かし彫りを施し、四方に瓔珞を垂らして中央に月輪を立てます。演目によっては、月輪に替えて鳳凰や牡丹、白蓮などを立てることもあります。この天冠は、牡丹と唐草文様を透かし彫りし、瓔珞に黄や青のビーズを使用したもの。優雅な舞を舞う女神や天女の役に相応しい、華麗な冠です。



4 ^{ちゅうけい きんじまつ ひのでず}中啓 金地松に日出図 1握 (作品リストNO.13)

縦 (最大) 35.5cm

江戸時代後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

5 ^{ちゅうけい しろじばしょうず}中啓 白地芭蕉図 1握 (作品リストNO.19)

縦 (最大) 34.6cm

大正～昭和時代初期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

^{ちゅうけい おうぎ}中啓は扇の一種で、閉じた扇の先が半ばから開いた形になるように作られたものを指します。能における最も基本的な小道具で、ほぼ全ての役が携帯し、これを用いて様々な演技を行います。

中啓の骨の色と図柄は、使用する役柄あるいは流派によって決まっています。黒色の骨で、金地に松と日出を描いた中啓は、武将の霊の役で使用する「修羅扇」の一種です。特に、「笹」「田村」などの演目の勇壮な武将の霊の役で用います。また、骨を木地とした白地の中啓で、表に松と蔦葛、裏に芭蕉を描いたものは、観世流が山伏役で使う中啓です。「安宅」の主役・弁慶をはじめとする山伏の役で使用します。



中啓 金地松に日出図



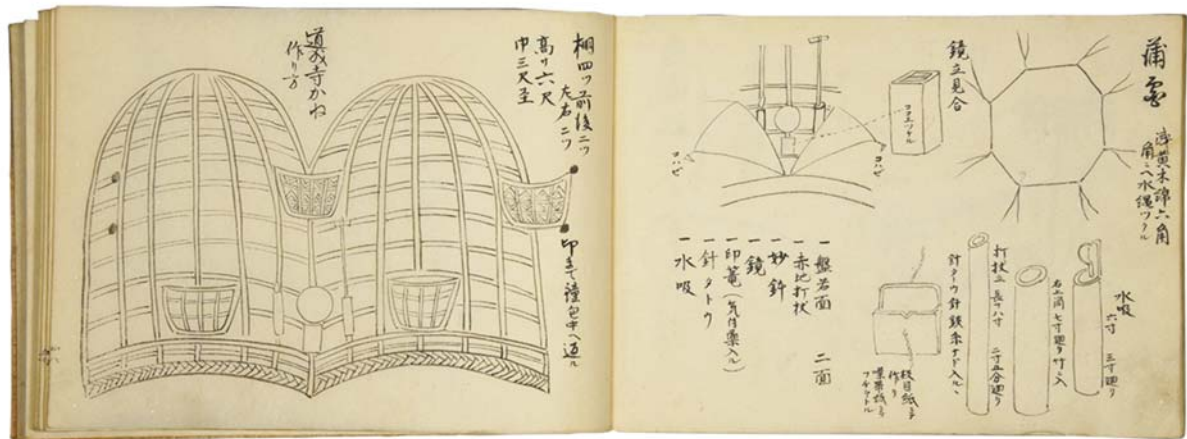
中啓 白地芭蕉図

6 のうどうぐずしき 能道具図式 1冊 (作品リストNO. 36)

縦 13.5cm 横 19.8cm

明治～昭和時代初期

当館蔵 (琴堂文庫)



演目ごとに作り物と小道具の図と寸法などをまとめた写本。写真は、^{どうじょうじ}「道成寺」で使用される鐘の作り物を描いたものです。

「道成寺」は、鐘の作り物を使った演出が見どころの演目です。そのクライマックスは、^{しらびょうし}白拍子の姿で現れた怨^{おんりょう}霊^つが天井に吊った鐘の中に消える「鐘入」で、白拍子が鐘の下で飛び上がると同時に鐘を落とす大胆な演出がなされます。そして鐘が引き上げられると、本性である恐ろしい蛇^{へび}に姿を変えて現れるという、劇的な登場シーンへと展開します。

鐘入の前後で姿を変えるために、鐘の内側には様々な細工が施されます。それを具体的に記したのが、写真の図です。鐘の内側に入れる道具として、蛇の姿で使用する般若の面2面（1面は面が損傷した場合の予備）と、怨霊を祈り伏せようとする僧を威嚇するために用いる打杖、役者の準備が整ったことを知らせるために鳴らす鑊鉢（銅鑊）、役者が自分の姿を確認するための鏡、装束を調える糸や針に加え、のどを潤す水吸（水筒）、更には気付葉入りの印籠^{いんろう}があげられ、右下にはこれらを設置するための入れ物の図と寸法、左には、それらを含めた道具の設置場所を記した詳細な内部図が記されています。「道成寺」の劇的な演出は、このように念入りに準備された作り物と、様々な道具によって成り立っているのです。